

提案事業の要件
(提案していただく事業は右記の要件を全て満たすものとします。)

- (1)中央区まちづくりビジョンの方向性に即していること。
- (2)地域が抱える課題に対応していること。
- (3)単なる陳情・要望でないこと。
- (4)施設等の建設や整備を目的としたものでないこと。
- (5)実現可能であること。
- (6)同一地域(校区)で各種団体等により現在行われていないものであること。
- (7)市又は区の事業として現在行われていないものであること。
- (8)営利目的及び特定の個人や団体のみが利益を受けるものでないこと。
- (9)政治、宗教活動及び営利活動を目的としたものではないこと

番号	1	2	3	4	5
タイトル	熊本城 音楽フェスティバル	食べて、話して繋がろう中央区	熊本城～新町・古町～中心市街地～水前寺文武両道：八雲と武蔵をメインとした「文学の散歩道」、「不敗の道」の整備	井手を生かしたまちづくり	「命の授業」によるつながりづくり
提案者	個人	個人(8020健康づくりの会中央支部長)	東海大学経営学部観光ビジネス学科フードツーリズム研究室 本熊本(ボンクマホン)実行委員会	地域遺産研究会	個人
1. まちづくりビジョンの該当項目	方向性②	方向性④	方向性①②	方向性②③	方向性③
2. 具体的な取り組み	熊本城 音楽フェスティバルの開催。観光の目玉になれば、経済の波及効果も望める。集客力のある有名アーティストを多数誘致し、音楽・芸術にふれあう機会を増やし、地元アーティストや飲食店も出店してもらおう。開催時期は夏がメジャーですが、他の音楽フェスティバルが夏に多いので、冬の方が面白いかもしれない。	①「口から食べる物を摂る 鼻呼吸の薦め(仮題)」講演会の開催 ②「命をいただく(仮題)」講演会の開催 中央区で開発したペロタッチうまか体操の普及など	熊本(中央区エリア)とゆかりの深い八雲と武蔵を取り上げる。八雲は来年(2015)が没後111年の記念。武蔵は熊本城を拠点に「強い熊本」がアピールできる。「文学」(文)と「武道」(武)の両道(武蔵はまさに文武両道)で、新生熊本中央区を区民と共に盛り立てていく。	・中央区を流れる渡鹿用水(大井手、一の井手、二の井手、三の井手)や藻器堀川のルートや、その界隈での様々な取り組みや防災情報等を紹介する「渡鹿用水(中央区井手)マップ」(仮称)を作成。 ・3つの井手などの散策ウォーキングや探検等の住民参加型のイベントの実施。	寝たきり状態から奇跡的に復活された腰塚勇人さんの「命の授業」の講演会の開催。
3. 取り組みのねらい	文化・芸術あふれる街の魅力向上 区民の文化的素養の向上 収益の確保 観光	今、子どもたちの食が危ない。子育ての人・地域の人に伝え子どもが生き生きと育つ環境づくりや校区単位でのイベントで、コミュニケーションの大切さ、発語の重要性を伝える。	文武両道で熊本の文化発信。文学、武道で中央区の広域連携。	住宅地の中で見過ごしてきた「用水」という一つのテーマで切り取ることで、中心市街地や城下町、水前寺公園だけではない広域の中央区を顕在化させる。中央区を縦断する熊本水遺産である渡鹿堰から大井手、一の井手、二の井手、三の井手やその沿川を一体(シンボル)とした保全と活用、防災によるまちづくり。藻器堀川なども含む。	「命の授業」の講演を実施して、中央区民の若い世代の方を中心に「命の大切さ」や「命の尊さ」を伝えてもらい、「今ある幸せ」と「命の可能性」に気づいてもらう。そして、いじめや自殺を減らし、家族の絆の大切さ、ひいては地域の絆の大切さに気づいてもらい、安全で安心なまちづくりにつなげる。
4. 取り組みの効果	文化・芸術あふれる街の魅力向上 区民の文化的素養の向上 収益の確保 観光	命の大切さを知る子どもが増加する。食のあり方を考える地域が増加する。よく噛んで食べる子どもが増える 弁当の日の増進など、市民活動が活発になる。	文武両道による観光ルートの整備。観光資源の開発にもつながる。	熊本市が掲げる「水の都」を区民が実感し、豊かな生活空間づくりに寄与する。また、平成24年の九州北部豪雨で用水が溢れたように、日常から用水などに触れることで防災意識を高める。	「命の大切さ」や「命の尊さ」を知る子ども・区民が増加する。いじめや自殺が減っていく。子どもを中心に多くの区民がドリームメーカーとなって、誰かの支えとなり生きがいを持てるようになる。家族や地域の絆作りにつなげる。
5. 取り組みにあたっての課題	ノウハウの蓄積がない アーティストとの出演依頼交渉が難儀 コストがかかる・出演アーティストの選定	広報手段が乏しい。 事業効果の分析などの協力者がいない。 地域健康教育の実践者(リーダー)育成。 小中学校の協力が必要である。	書店どうしの連携が可能か? 「武道」に関しては、中央区在住の柔道家の応援を求める。東海大をはじめ、多数住まいされているはず?	範囲が漠然とし、まだ具体的な取り組みに至っていない。26年度の早い時期に予備調査を行い、関係者や他事業などと協議して事業を具体化したい。まちづくり懇話会でも協議していただきたい。	開催方法・広報をどのように行うか。
6. 事業実施にあたってのあなたの役割	広報活動など	区内の8020健康づくりの会中央支部会員や食生活改善推進委員会の協力を得て、市民活動を推進することができる。	書店の連携をはかる。「武」(柔道)との連携。広域地域間のコーディネート。	用水沿川地域の現在の取り組みや課題の情報提供や予備調査	講演会開催に協力する。
7. 事業実施にあたっての区民の役割	地元飲食店などの出店 地元アーティストの出演	区民のリーダー育成講座の受講、健康イベントへの参加、学校支援する等。	「文学」(八雲)の散策道の整備への協力。八雲と武蔵のコスプレ大会を開催しても良いかも。	井手の存在をまずは知り、これまでの歴史(用途等)について、理解する。積極的に「事業」に参加し、区民同士の連帯感を深める。	講演会に参加して、一人ひとりがドリームメーカーになる。家族の絆を深め、地域の絆を深めていく。
8. 事業実施について区役所の役割(区役所に望むこと)	イベントを開催する上で調整など	情報の周知、イベントの広報、リーダー育成、中央区メニューづくりの参加者の募集、ペロタッチやうまか体操の健康教育の広報と場の確保、地域活動支援など	広報誌、等での広報。区民への理解と協力の呼びかけ。	マガジン等で大井手、一の井手、二の井手、三の井手や藻器堀川などを掲載し、周知を図る。井手界隈での様々な取り組み等を紹介する「渡鹿用水マップ」(仮称)の作成協力。用水沿川の情報提供。	講演会を開催するにあたっての広報・調整等
9. 事業実施時期(始期から終期まで)	平成27年4月頃から～平成28年3月頃まで	平成27年4月頃から～平成28年3月頃まで	平成27年4月頃から～平成28年3月頃まで	平成27年4月頃から～平成28年3月頃まで	平成27年度中 実施可能な時期にいつでも。
10. 提案事業について事務局からの意見	文化財である熊本城での開催であるため、事業内容、事業費用の面での課題が大きい。	健康をテーマにした事業で、区内の取り組みにも合致している。事業内容を検討していくことが必要と思われる。	中央区と武蔵との関わりが不明であり、全学的な取扱いが適当ではないか。また、ハード整備が必要な場合は対象外となる。	昨年より継続的な検討事業であり、関心も高かったテーマである。今後は、どのような展開をするか内容をつめていくことが必要と思われる。	講演会なので実施がしやすく、命の大切さや地域のつながり大切さを見直すきっかけ作りにはなると思われる。